



全国図画工作・美術教育研究大会 in 北海道特集

<目次>

・全国大会風景	1 (表紙)
・全国大会実行委員長挨拶	2
・全国大会を振り返って	3
・全国大会スナップ	4~5
・全国大会参加者の声	6
・24年帯広大会のお知らせ	7
・地区サークル情報	8

全国図画工作・美術教育
研究大会 in 北海道

【大会主題】「わたしを創る、自立と共生の造形教育をめざして」

【研究主題】「あったかい!」をつなげ合う造形活動

第64回 全国造形教育研究大会
第62回 造形表現・図画工作・美術教育研究全国大会
第61回 全国造形教育連盟 日本教育美術連盟 共同開催



**北海道
造形教育
連盟報**

No.133 2011.12.1発行
発行 北海道造形教育連盟
会長 菅原清貴 (札幌市立幌西小学校長)
事務局長 稲實 順 (札幌市立旭小学校長)
事務局 札幌市立旭小学校
〒062-0912
札幌市豊平区水車町3丁目1-22
TEL(011)811-4148・FAX(011)811-1382



「全国図画工作・美術教育研究大会 in 北海道」を土台として

北海道造形教育連盟

大会長 菅原 清貴
(札幌市立幌西小学校長)

東日本大震災の後、復興を進める施策がどれほど効果的に東北地域に希望をもたらしているのか不安な状態です。特に、原発事故で全国に散ってしまった福島の子もたちの暮らしぶりも気がかりです。避難区域の学校は、そこに勤務していた教職員の今後も含め長期の支援の手を必要としています。昨年全道連福島大会での元気いっぱいの子もたちの笑顔が思い出されます。

さて、「全国図画工作・美術教育研究大会 in 北海道」が終了し4ヶ月余が経ちました。ご参加いただいた皆様に深く感謝申し上げます。北海道造形教育連盟は、昭和26年に北海道図画工作連盟として設立されました。昨年は60周年の記念年として記念誌発行や全国大会プレ大会及び式典を開催いたしました。全国大会は、還暦を迎えた本連盟の総力をあげての取り組みとなりました。

おかげさまで全国から945名の参加をいただき大盛会のうちに終了することができました。今大会は、戦後3回目となる全国造形教育連盟と日本教育美術連盟が共同で開催する大会となりました。第1日目は、校種別の研修さらには共同開催会議、その後「懇親の集い」が行われました。2日目は、幌西小と円山小を会場に幼児から大学生まで参加しての授業公開が行われました。授業者を中心に多くの造形の仲間が、子どもたちのしあわせに繋がる「あったかな」授業を実現させようと尽力くださいました。また、充実した実践に基づく研究発表も全国からいただきました。それら公開授業や研究発表に対し、我が国の造形教育を代表する40名を越える助言団の皆様へ、ご示唆をいただきました。その夜開催されたレセプションは、360名という参加者で、会場は熱気に包まれました。最終日の全体会は、市民ホールで「全員フォーラム」を開催しました。新旧4名の調査官に「これからの

造形教育」の在り方を指し示していただきました。同時開催された、「子どもアート展」は、市民にも鑑賞いただき充実した展覧会となりました。

この大会をさらに価値あるものにしてくれたのは、「実践事例集：造形新時代ひらく」の発刊でした。この事例集は、全道の幼稚園から中学校までの授業の実際、美術館との連携や音楽祭とのコラボレーション、そして地区サークルの活動の紹介など大会実行委員会広報部が尽力しまとめ上げたものです。日本教育新聞にも紹介され、大会の終了後も全国から購入希望が多く寄せられました。

様々な困難を乗り越えて実現したこの大会は、今後の造形教育の未来を指し示すものとなったと自負しています。

しなやかで繊細な感覚を持つ日本人の感性を未来につなげていくために、造形教育で培う資質や能力の大切さを全国の先生と確認できた大会でした。

来年は、沖縄での全国大会、帯広・十勝での全道大会が開催されます。今回の全国大会で皆さんが創りあげた峰を大切に、大成功することを祈念しています。

最後に、この大会をつくり支えていただいた全ての皆様に、心からの感謝を申し上げます。





『あったかい』をつなげ合う造形活動

全国大会研究統括部長

森 實 祐 里
(札幌市立星置東小学校)

1. 「あったかい！」言葉に包まれた大会

今回の大会に参加された方々から“「あったかい！」大会だった”とたくさん声をかけていただきました。授業も分科会も、紀要、HP、ブログ、扉分科会、全員シンポジウムなど、どれをとっても素晴らしいと感動していただけたことにスタッフ一同、感謝の気持ちでいっぱいです。

扉分科会では、校種・地域を越えた交流が生まれ、「初めて幼稚園の先生とお話しできて、とてもよかったです」など、参加した感想がたくさん聞かれました。また、全員シンポジウムでは、授業者に対してたくさんのメッセージをいただくことができました。フロアの皆様からのご意見やご感想で、会場全体がひとつの「あったかい！」空間に包まれた、交流の場となったと思います。

2. 「あったかい！」姿がたくさん見られた授業、分科会

大会に参加された方々から、「授業がいい！」と、お褒めの言葉をたくさん頂きました。今回は20本の授業を行いました。どの分科会会場からもあたたかく、そして、熱い意見が出されました。

また、授業づくりの体制について、高く評価していただきました。授業者の授業に向かう真摯な態度だけでなく、それに加えて授業づくりを各扉の扉責任者が中心となって授業者を支えてきた経緯があります。そして、司会者と記録者も指導案づくりに協力しました。中には、授業者と一緒に材料を試したり、司会者などが事前授業を行ったりする「扉」もありました。授業分科会では司会者も質問に答えるなど、協力体制を感じた方が多かったようです。この分科会で皆様から頂いた貴重なご意見をもとに、今後も研鑽を積んでいこうと気持ちを引き締めているところです。

3. 扉について

前回の札幌での全国大会の考え方を踏襲し、この大会も校種を越えた「扉」で研究を進めました。今回は、造形活動にどのような“まなざし”で迫るのかを考えました。「子どもから見て、授業や題材を問い直す“こどものまなざしの扉”」「教師がどのように子どもに寄り添うのかを検証する“教師のまなざしの扉”」「社会や未来をつないでいく造形活動を考える扉“みらいへのまなざしの扉”」の、3つに絞りました。設定当初から、“こどものまなざし”と“教師のまなざし”は重複するところがある、“みらいへのまなざし”だけは階層が違うなど、問題を抱えての出発でした。そして、授業づくりを通して見えてくる事もあり、扉論は何度も再考し大会を迎えました。3つの扉はどの授業にも当てはまり、扉責任者や司会者、授業者も悩むところが多かったのも事実です。そして、たくさんの課題も浮き彫りになってきました。しかし、大きな成果として、校種を越えて造形教育に対する考え方や指導観、子ども観などを交流する事ができました。これにより、互いの理解を深め合い、授業観や子ども観の共通理解のもと扉メンバーの絆が深まっていきました。

4. 大会を終えて

この大会を通して、「あったかい！」人とのつながりがたくさん生まれ、大きな財産となりました。大会は終わりましたが、授業者を中心にした若手の新しい風を感じています。全道・全国の皆様におかれましては、これからも北海道の研究に対し、ご示唆を頂けると嬉しいです。皆様のおかげで無事に大会を終える事ができ、本当に感謝しています。ありがとうございました。

全国図画工作・美術教育研究大会 in 北海道

2011.7.26～28 札幌大会

全国大会開催

会場：ホテルライフオート

大会初日は校種別部会が開かれました。全国代議員会と日美連全国理事会も開催されました。



授業公開

会場：札幌市立幌西小学校
札幌市立円山小学校



こどものまなざしの扉・みらいへのまなざしの扉・教師のまなざしの扉という3つの扉分科会を設定しました。幌西小学校と円山小学校の2会場で、授業公開が20ありました。どの授業にも菅原会長がよく話されていた「あったかい」がたくさんあふれていました。

分科会&提言発表



午前中は授業についての話し合い、昼食をはさんで午後からは提言発表が行われました。全国から40の実践が紹介され、活発な意見交流が行われました。「自分だったらどのように題材を組むだろうか?」「なるほど、そういう手立てがあったか!」という声もたくさん聞かれました。

その日の夜には会場をホテルライフオーツに移して歓迎レセプションも盛大に行われ、図工談義に花が咲きました。



その日の夜には会場をホテルライフオーツに移して歓迎レセプションも盛大に行われ、図工談義に花が咲きました。



授業プレゼン&全員シンポジウム



大会最終日は市民ホールにて前日の授業について成果と課題についてのプレゼンが行われました。また、全員参加のシンポジウムも開かれました。また、近くの道新ギャラリーや市役所ロビーや市民ホール入口には子どもたちの作品もたくさん展示され会場に華を添えました。たくさんの先生方や子どもたちに支えられて無事に3日間の日程を終えることができました。講評をいただいた4名の先生方にもお礼申し上げます。チーム北海道の新たな出発に向けて“あったかい”を次の帯広大会へ引き継いでいきましょう!



愛媛県

松山市立道後中学校 小倉 祥子

授業をされた寺林先生の授業に取り組む姿勢に感動しました。実際に広島へ行って自分の目で、耳で、足で情報を集め、自分の心に素直に感じたままを授業に生かし、生徒たちにも十分にそのことが伝わっていたと思います。また、先生の「語り」がとても心に残っています。落ち着いた話し方、生徒への目線の配り方、間の取り方、生徒との会話、そして、先生自身の明るい笑顔。美術の授業は制作に偏ってしまいがちですが、教師の言葉や表情によっても授業の流れが変わっていくものだと感じました。題材の設定や課題の設定ももちろん重要ですが、教師の「授業力」の大切さを再認識した授業でした。ありがとうございました。

栃木県

宇都宮大学教育学部附属小学校 大塚 智大

教室に入ると、何ともアットホームな雰囲気、その中に、子どもたちの笑顔が溢れていました。授業開始前に、前時までに作ったくるくる丸めた紙を机の上に出して置きました。形ごとにきれいに並べている子、高さや色を並び替えている子など、並べる様子見てこの時点から子どもたちの作品づくりが始まっているように感じられました。授業が始まり、ほとんどの子どもが何の戸惑いもなく、次々にボンドを付け、台紙に貼っていく姿に驚かされました。それまでに、子どもたちが思いをふくらませていたからだだと思います。そして、日頃から子どもたちが伸び伸びと活動していることがよく分かりました。また、濱口先生の子どもに対する声掛けが受容的で温かく、その声掛けで子どもたちが自信を持って取り組んでいました。日頃からの子どもとのかわり方の大切さを改めて感じました。すばらしい授業をありがとうございました。

北海道

音威子府美術工芸高等学校 河野 昌一

まずは今回大会に参加させていただき、大きな学びを頂いたことに感謝申し上げます。
あらためて高校美術における題材設定の難しさや、単元の進め方について考えさせられました。特に、導入の仕方では生徒の意欲を引き出したり、幅広い個や技能の差を考慮した題材の設定により、意欲的に制作に取り込めるようにするなど、授業者の準備が重要であることを強く感じました。また、生徒の取り組みに対する評価ばかりでなく、授業者として単元・題材・進め方等について自己評価することにより、同じ単元・題材であってもより良くしていく必要があることを感じました。また、その際には、生徒の感想・評価等も積極的に取り入れていくことも大事であると思いました。

福井県

福井市立木田小学校 八杉 裕美

北海道に来てよかった！今まであまり図画工作の授業を参観したことがない私ですが、子どもの目が輝く授業をたくさん見ることができて、とても勉強になりました。《とんとん広がるみんなの夢》では、楽しそうにシャボン玉をふいたり受け止めたりする子どもたちの姿がとても印象的でした。シャボン玉を紙に残せる驚きやはじけたときの形の面白さ、色を重ねたときの美しさを感じ取ることができるとも魅力的な題材でした。子どもの「色を混ぜたい」という発言にも大きな紙を準備することで応えていました。先生が、想定外だった子どもの活動を止めなかったことは大切なことで、長い目で見ると子どもの想像力を伸ばすうえでとても重要だだと思います。これまで、いかに教師の求める活動に子どもたちを仕向けていたかを反省した瞬間でした。最後に、追試をする時にはペア活動で出来上がった作品を紹介しながら、紙に残ったさまざまなシャボン玉の色や形の違いにふれ、活動のめあてをもう一度意識させるとよいのではないのでしょうか。

東京都

渋谷区立広尾小学校 石田 智春

故郷の札幌での大会、とても楽しみにしていました。懐かしい友人や先輩たちの授業を参観することができました。《ぐるぐるワールド》ではもくもくとぐるぐるを切っている子どもたちの姿がとても印象的でした。先生の指示をよく聞いて、素直ないい子たちだなあと思った反面、題材との新鮮な出会いやひらめき、はみ出す面白さがあつたらもっと違う展開になったのではないかなあ・・・とも感じました。今は東京で図工専科ですが、同じ教材の研究を通じて交流できたことを嬉しく思います。ありがとうございました。



大会参加者の声

佐賀県

佐賀市立諸富中学校 中村 誠一

私は、授業を参観するときには、子どもの様子を注意深く観察するようにしています。この授業では、全ての子ども表情が、授業が進むにつれ、いきいきと輝いていました。子ども一人一人が「自分にもカラーコーディネートをすることができた。」「相手を思いやりながら、こんなにすてきな作品ができた。」と感じ、達成感を味わうことができて自己肯定感が育まれたと思います。授業者の先生の準備や手立て、個々へのさりげない支援と評価は子どもたちにやる気と勇気、自信を与えていました。この授業で深まった色彩に対する興味やしっかりと身についた目的に応じて色を組み合わせる力を子どもたちは、今後生活の中のいろいろな場面で生かしていくことでしょう。子どもたちの輝き、そのための真摯な取り組み。この「あつたかい」北海道での経験を九州・佐賀に一番のおみやげとして持って帰りたいと思います。

北海道

函館市立中の沢小学校 宮川 典子

子どもたちと学生、みんなの笑顔が印象的な授業でした。4つのグループに分かれた児童が、それぞれ2名の学生のナビゲーションで作品を鑑賞する（製作者ではない学生のファシリテーションにより、児童の思いや考えが尽きたところで作者が制作の動機やテーマなどを語る）流れだが、普段あまりふれることのない作品（エッチング・写真・油彩・ポップコーンを用いた立体・巨大な張り紙細工）を様々なアプローチ（作品にふれたり覆転がって見たりなど）で鑑賞し自由な雰囲気でも話し合ったり作者の思いにふれたりすることは子どもたちにとってはエポックメイキングな体験だったようです。図工に苦手意識をもっていた子どもたちにさえ鑑賞の楽しさを十分に味わうことのできる場であったと思います。

青森県

弘前市立石川中学校 藤田 澄生

則友先生の笑顔とあたたかいやりとりがあふれる授業でした。単純な「自分一人」による「自分のため」の造形活動ではなく、誰か大切な人のためというモチベーションを高める導入に続き、クラスの仲間と交流する中で気づいた価値を作品に込める展開を経て、生徒自身の内と外にある「もの」や「こと」を往還させながら色について学習を深めさせる、そんな提案性の高い実践でした。分科会では、具体的な討議の柱が二本提示されましたが、その柱に関連した本時参観の視点を事前に参観者にペーパー等で明示していれば、短時間で話し合いを深められたのではと感じます。意図的な制限により一瞥フォーカスされる学びの可能性や、この題材を本校向けにどう「料理」しよう？ということを考えながら参加でき、とても勉強になりました。

つくるとき・つながるとき

研究主題 「豊かな心をはぐくむ造形教育」

期日 平成24年(2012年)7月27日(金)

会場 帯広市立帯広第五中学校 北海道立帯広美術館

内容 開会式・公開授業・全体会・分科会・レセプション

10年ぶりとなる帯広十勝での大会です。前回以来積み重ねてきた「つくる」がどのように「つながり」、子どもたちの心をはぐくんできたかを確認する大会にしたいと考えます。学びの場づくりと造形教育に視点を当て、十勝の造形教育の特色でもある「版画」にも重点を置き、語り合う大会にしたいと思えます。皆さんの参加を心よりお待ちしております。

1. 心を写す分科会～版画実践分科会(合同分科会)

「版画」という一つの題材を通じて、校種を超えて交流する分科会です。「思いや心を写す」ことの価値と重要性を語り合しましょう。

2. わたしをつくる(小学校)／私をつくる(中学校)分科会

「わたし・私」をテーマに表現する子どもの姿を作品を通じて交流する分科会です。小学校・中学校別に行います。それぞれの年代ごとに大切にすることも語り合しましょう。

3. みんなでつくる分科会(幼稚園・小学校)

「表現→展示→鑑賞→表現」のサイクルのなかで「みんなでつくる楽しみ、よろこび」を語り合う分科会にしましょう。

4. 未来へつなぐ分科会(中学校・高等学校)

「未来を生きる子どもたち」に必要な力は何かを考える分科会です。地域の文化活動との連携にも視点をあて、授業・提言を準備しています。

つくる・つながる全体会企画進行中!

大会関連事業としてワークショップを企画中!

全体会はシンポジウム・版画作品交流会です。全道各地の作品をお待ちしています!!

苫小牧市教育研究会 造形部会の活動

苫小牧市立豊川小学校 鈴木 梨沙



苫小牧市教育研究会造形部会では、今年度「生き生きと表現し、創造する力を育む授業をめざして」をテーマに活動を進めています。9月には、“日々の授業に即生かせるような実践活動を”という部会員の希望から実技講習を行いました。水彩画の作品作りに取り組んだり、各校の授業で取り組んだ作品を鑑賞し合ったりしながら、知識や技術の向上を図りました。11月の研究大会では、



小学校中学校一本ずつの研究授業を行いました。ウトナイ小学校の工藤倫教諭、沼ノ端中学校の葛巻真祐教諭の授業を基に「豊かな創造性を育む授業づくり」という視点で活発な討議がなされました。また、講師に北海道教育大学札幌校美術教育学部の佐藤昌彦教授をお招きして、工作の実技講習を行い、教師としての力量を高める場として実りある一日となりました。造形部会では、毎年市民行事である、紙の街苫小牧のイベント「紙フェスティバル」や「文化祭教育美術展」に参加し、小中学生の作品交流の場としています。今後も地域の造形活動がさらに広がっていくよう努力していきます。



上川造形教育研究会の活動紹介

旭川市立緑が丘中学校 中島 圭介

上川造形教育研究会は今年度で設立10年目の節目を迎えました。上川管内と旭川市は人事交流があり、図工美術部員が管内に出たり旭川市内に入ったりする地域性があります。そこで、今年度より、3年後の全道造形大会を見通し、旭川市教育研究会図工美術部会と研究内容を共有化し、連携を図りながら同一歩調で研究推進をしていくことにしました。



研究テーマは「『わたし』の喜び」あふれる造形活動と設定しました。児童生徒に「図工や美術の時間が楽しい!」「教科として必要だ」などと理解してもらうためには、学習過程において「喜び」を実感する学習活動を積み重ねていくことが大切であると考えました。

そのためには、教師が児童生徒の行為(プロセス)や作品から児童生徒の「育ち」を的確に読み取り、効果的な手立てを準備することにより、心の扉を開放し、創造の引き出しをたくさん作り出すことのできる授業づくりを目指していきたいと思っています。

【主な活動内容】

- 4月 総会
- 6月 作品を語る会
- 7月 造形まつり
- 10月 旭川市教育研究大会
(旭川市立近文第一小学校)
- 11月 第10回上川造形教育研究大会
(上富良野町立上富良野小学校)



あ と が き

連盟報133号では全国大会の様子を紹介しました。原稿を執筆いただいた菅原大会長と森實先生ありがとうございました。地区サークル情報ですが、今回は苫小牧と上川を紹介しました。鈴木先生・中島先生にもお礼申し上げます。これから年末に向けて何かと忙しい時期になりますがお体でご愛ください。さて、次年度は帯広大会です。TEAM北海道のパワーを集結し、あったかいをつなげ合う造形活動の見える素晴らしい大会にしていきたいと思います。

<北海道造形教育連盟 広報部> 大高雅子・櫻田 悟・橋本 祥子・松本 和彦